

第3回 地域活動報告会 開催概要



はじめに

地域活動報告会も今回で第3回を数えました。COC推進委員会では、具体的な実施計画の草案を7月6日に決定し、同月28日に実施計画を正式決定しました。

その後、教授会への報告、委員会での審議を重ね、実施に至ったものです。

主催：稚内北星学園大学

会場：新館1301教室

日時：平成27年10月20日(火) 14時30分～16時10分

※ 前後30分はポスターセッション

●開催の目的

COC事業の個々の具体的事例を共有し、担当者(教職員・学生)を励ます【H27COC事業調書(34)記載の成果目標より】

●発表形式

口頭発表及びポスター発表とし、口頭発表は、主に学生が参画した調査記載事業から選定、ポスター発表は、上記に漏れたものほか、個々の学生、学生団体、教職員の研究、教育、社会貢献活動としました。なお、平成27年度地域志向教育研究経費採択事業のポスター発表を必須としました。

口頭発表要旨

<第1報告：地域教育分野>

○報告者

佐藤 幸輝(情報メディア学部情報メディア学科3年)

木村 英之、渡辺 千尋(以上、同4年)

○報告題名

地域教育支援と教職としての学び

○報告内容要旨

地域教育支援として、主に教職ゼミで取り組んでいる3つの活動内容と、教職をめざす学生として学んだことについて報告しました。

渡辺さんは、豊富町で行われた夏休みの学習支援について、事前準備の大切さや子どもたちとの関わり方、子どもたちの学習支援のサポートの仕方、学生同士の連携・協力の大切さ、地域を知ることの重要性を学んだと報告しました。

木村さんは、猿払村教育委員会主催の遠隔学習支援について報告しました。

佐藤さんは、「まちラボ」を使い、ゼミ生が子ども達に対し無償で行った学習支援「無料塾」について報告しました。



<第2報告：地域観光分野>

○報告者

阿部 卓、布目 勇氣、大井 峻司(以上、情報メディア学部地域創造学科3年)

○報告題名

まち歩きガイド視察報告

○報告内容要旨

去る9月1日～3日東北地方を視察しました。観光ガイド事業立ち上げの際の地域との調整やマーケティング面を中心に報告しました。

考察として、①「ガイドの意義」が、道に迷わない、地元の話の聞くことができる、そして自分だけではできない体験や発見ができること、②「ガイドの観光まちづくりにおける意義」が、地域アピール、移住促進、交流人口増加などを通じた地域の課題解決の手段にあることなどを報告しました。



<第3報告：まちなか振興分野/学生COC支援室選定>

○報告者

大野 颯太(情報メディア学部地域創造学科4年)、

藤澤 翔太(同3年)

○報告題名

商店街における実践活動

～稚内中央商店街での活動を通して～

○報告内容要旨

稚内中央商店街における動画づくり、学生によるイベント運営を通して何を学んだのかを報告しました。

事例として、「中央アイスキャンドルロード」における「わくわく★ほくほく in Snow House」、「第2回白夜!!稚内中央アーケード祭♪」における「～Wakhok White Night～大学市」を紹介しました。また、これらの企画の母体となる学生団体「大学COC事業学生サークル(通称「だじビル」)」の取り組み、現在進行中の稚内中央商店街振興プロジェクト「稚内中央商店街 紹介動画制作」について報告しました。

動画紹介

出汁之介(だしのすけ)稚内中央商店街に行く(幹)

https://youtu.be/ly_wHWy9ZtU





報告の要旨 (続き)

<第4報告：まちなか振興分野／学生COC支援室選定>

○報告者

武田 大貴 (情報メディア学部地域創造学科3年)、白石 拓也 (同4年)、越後 武蔵、勝又 万由子、竹原 朋希、中島 拓人、中田 瑞稀、本田 楓芽、山岸 純樹 (情報メディア学科1年)

○報告題名

商店街における実践活動

～利尻町杓形商店街での活動を通して～

○報告内容要旨

利尻町杓形商店街における「海藻押し葉コンクール」(9月2日から5日の4日間)の活動報告でのボランティア活動を通して何を学んだのかを報告しました。



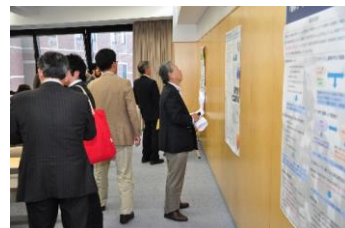
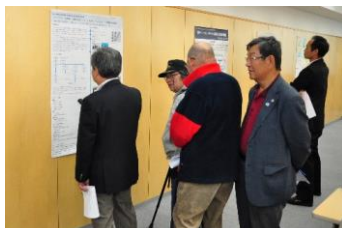
例えば、参加学生は、グループワークを通じて、「もし、予算があったとしたら杓形商店街でどのようなことがしたいか?」という問いに、利尻町の「あったらいいもの」×「強み」の組み合わせから、①会員制の海産物店、②若者の流出を止める、③海藻押し葉の商品化やオークション、といった方策を提示したこと、町長を表敬訪問し意見交換したことを報告しました。

4日間の活動を通じて、①人が作ったもの(作品)を大切に扱い、気持ちを引き継ぐこと、②「おはよう、こんにちは」が当たり前に言い合える関係性があること、③地元の若者が活躍できるような仕組みづくりが必要であることを学んだと報告しました。

ポスター発表

第3回となる今回は、地域活動の広がりを背景に、地域活動事例が増加したため、口頭発表に加えてポスター発表を導入しました。

今回は、本年度の地域志向教育研究経費採択課題4件の研究計画について、ポスターにて報告しました。



採択課題一覧

○研究計画1／地域観光分野

終 和佑、小谷 彰宏 (以上、情報メディア学部准教授)
地域内在型物語の制作・蓄積・提供手法の構築



○研究計画2／地域観光分野

黒木 宏一 (情報メディア学部講師)、南 満幸、相原 成史、岩本 和久 (以上、同教授)、藤崎 達也 (同講師)、高 澍 (同特任助教)

インバウンドを意識した観光施設づくり

—本学のシーズを活かした地域連携の試行—



○研究計画3／地域教育分野

佐美 俊輔、若原 幸範 (以上、情報メディア学部准教授)
「南中ソーラン」の今日的意義と課題の検証



○研究計画4／地域教育分野

安藤 友晴、佐賀 孝博、浅海 弘保 (以上、情報メディア学部教授)、小泉 真也、ゴータム ビスヌ・プラサド (以上、同准教授)、米津 直希 (同講師)

稚内市のICT利用教育:

実態の把握と教員向け研修カリキュラム策定



出席者へのアンケートから

当日参加された86名のうち59名(68.6%)から回答を得ました。

「報告会に来てよかったと思いますか。」との質問に、大変良かった(18.2%)、良かった(60.0%)の回答(当該設問の有効回答数は55)を頂きました。

「大変良かった」と回答いただいた方の自由記述には、「各学年、学生が自主的に何を学んでいるかを知ることができた」「COC事業について理解できた」との一般参加者の方の声の他、「関わっていない活動の内容も知ることができた」という学生の声、「よく事例を考察していると感じた」という学生の声、「活動の内容、学んだことがよくわかる報告会だった」との教職員の声もありました。

総括

第1回、第2回と比べて、来場者が増加傾向にあり、本学の地域活動への関心は、学内外を問わず増しているものと考えられます。

本学では、COC事業をはじめ、学生団体活動、ゼミ活動、その他多くの連携事業を展開しております。これらの情報発信に努めるとともに、それらの活動を教育面、研究面から議論し、量とともに質の向上を図ってまいります。これらの活動を通じて、本学は稚内・宗谷地域を支える地(知)の拠点として役割を果たしていきたいと考えています。

執筆：黒木宏一(本学講師)